



は が ほど くらい

文法を楽しく!!

「つもり」(2)

「つもり(1)」では、「意志」を表す「～(る)つもりだ」(例：私は事実を書くつもりだ。)と「信念・その気」を表す「～(た)つもりだ」(例：私は事実を書いたつもりだ。)を勉強しました。今回は、「意志」「信念・その気」の過去の表現「～(る)つもりだった」「～(た)つもりだった」と、「～つもりだ」の否定について勉強します。

1. 「意志」を表す「～(る)つもりだ」の過去

- (1) 夫：午後、友達と出かけるつもりだ。
 <それから3時間経って>
 妻：あら、出かけなかったの？
 夫：うん、出かけるつもりだったけど、雨が降り出したので、取りやめたんだ。
- (2) ゆうべは早く寝るつもりだったが、おもしろいテレビを見てしまって寝るのが遅くなった。

(1)で夫は、午後出かけるという「意志」を妻に伝えています。しかし、3時間後になっても夫が家にいるので妻が尋ねると、雨のため出かけるのを取りやめたと答えました。その時夫は「出かけるつもりだった」と言っています。これは夫が3時間前を思い出して、その時の意志を過去のこととして伝えています。

(2)も、テレビを見る前は早く寝ようと思っていたことを、「早く寝るつもりだった」と過去のこととして述べています。このように「意志」を過去のものとして伝える場合は、「～(る)つもりだ」が「～(る)つもりだった」になります。

次の図は、(1)(2)を図式化したものです。

【過去のある時】(私が)思う



- 意志** (1) 友達と出かけるつもりだ
 (2) 早く寝るつもりだ

今(私が)思う

【過去のある時】のこと



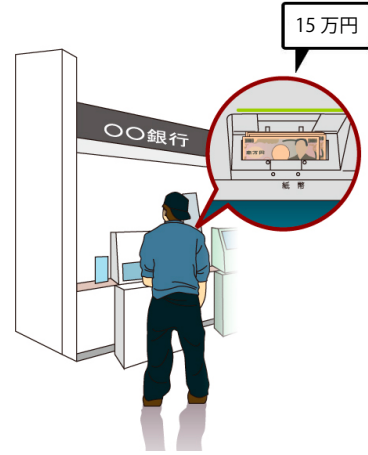
- 意志** (1) 友達と出かけるつもりだ
 (2) 早く寝るつもりだ

+ だった

(3) 中3女子誘拐容疑で逮捕。名古屋のコンビニ店員「結婚するつもりだった。」

(4) 「警察に届けるつもりだった。」ATMから取り忘れの15万円盗んだ男を逮捕。

(4)



(3)(4)は、前回の宿題ですが、(3)でコンビニ店員の男は、その時(中学3年の女子を誘拐した時)のことを振り返って、その時は「その女の子と結婚したかった」と言っています。また、(4)でも、逮捕された男は、その時(ATMで誰かが取り忘れた15万円を持ち帰ろうとした時)を振り返って、その時は「警察に届けようと思っていた」と言っています。

2. 「信念・その気」を表す「～(た)つもりだ」の過去

- (5) 私はプロポーズを断ったつもりだったが、相手は断られたとは思っていなかった。
 (6) 少しは分かったつもりだったが、実際は分かってなかったかもしれない。

(5)は、私はその時はプロポーズを断ったつもりなので、一件落着いたと思っていたら、実は相手はそうは思っていなかったということを示しています。(6)もその時は自分としては分かったと思った、しかし、今当時のことを思い出すと、そうではなかったということを表しています。(5)(6)を図式化すると、次のようになります。

【過去のある時】(私が)思う



- 信念・その気** (5) プロポーズを断ったつもりだ
 (6) 少しは分かったつもりだ

今(私が)思う

【過去のある時】のこと



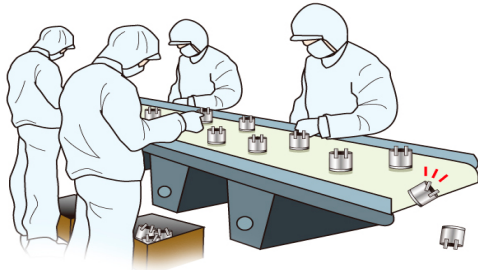
- 信念・その気** (5) プロポーズを断ったつもりだ
 (6) 少しは分かったつもりだ

+ だった

宿題の残りの2題は次のようでした。

- (7) 検査は慎重にしたつもりだったが、不良品が混じっていた。
 (8) 前の日に完全に覚えたつもりだったが、試験では思い出せなかった。

(7)



(7)でこの人(話し手)は、その当時(検査した時)を思い出し、自分としては「慎重に検査した」と思ったのに、結果的には「不良品が混じっていた」ことを知ったことになります。また、(8)では、この人(話し手)は試験当日を思い出し、自分としては「試験の前の日に完全に覚えた」と思ったのに、結果として試験場では思い出すことができなかったということになります。

では、次に、「～(る)つもりだ」「～(た)つもりだ」の否定について考えます。

3. 「意志」を表す「～(る)つもりだ」の否定

「意志」を表す「～(る)つもりだ」の否定には、「～ないつもりだ」、「～(る)つもりはない」、そして「～(る)つもりじゃ／ではない」の3つがあります。

1) 「～ないつもりだ」VS「～(る)つもりはない」

- (9) A: 明日どうする? 行く?
 B: 私は行かないつもりだ。
 A: ええっ、行かないの?
 B: うん。誰に何と言われても、私は行くつもりはないよ。

(9)で最初Bは、「行かない」という自分の意志を表明しています。「行く」に対して、単に「行かない」を選んだということになります。Bが「行かないつもりだ」と言ったのに対して、Aがさらに「行かないの?」と念を押してきたので、強く、明確に「行くつもりはない」と自分の意志を告げました。このように「～(る)つもりはない」は「～ないつもりだ」より、より強く否定の意志を表します。

「誰に何と言われても」のように逆接を表す「ても」や、「絶対」「決して」などの副詞とともに使われることが多いです。

2) 「～(る)つもりじゃ／ではない」

「～(る)つもりじゃ／ではない」は、「(そう見えるかもしれないが、) そうではない、そういう意図はない」という意味を持ちます。

- (10) A: もうちょっと急いでくれる?
 B: うーん。
 A: 急かすつもりじゃないけど、時間があまりないのよ。
 (11) 文句言うつもりじゃないんだけど、やっぱりやり方が変だと思ふ。

「～(る)つもりじゃ／ではない」は、後ろに「が」や「けど」が付いて、一度言ったこと(「急いでくれる」と頼んだこと)に「それは急かす気持ちからじゃない」と注釈を付けたり((10)、前置きの断りを入れたり((11)する時に用いられることが多いです。

4. 「信念・その気」を表す「～(た)つもりだ」の否定

「信念・その気」を表す「～(た)つもりだ」の否定にも、「～なかったつもりだ」、「～(た)つもりはない」、そして「～(た)つもりじゃ／ではない」3つの形があります。

- (12) A: 彼女に何か失礼なことを言ったんじゃない?
 B: いや、別に失礼なことは言わなかったつもりだけど。
 A: 本当? 彼女、怒ってるよ。
 B: ええっ。私は失礼なことは言ったつもりはないよ。

(12)でBは「言わなかったと思う」と主張し、Aのさらなる追及に「そういう意図はない」と否定しています。「(言わ)なかったつもりだ」と「(言っ)たつもりはない」の否定の強さはほとんど同じですが、後者は相手から言われたことに対して弁明の意味で用いられることが多いです。

- (13) A: これ変な絵ですね。
 B: そうですか。でも、決してふざけて描いたつもりじゃないですよ。

「～(た)つもりじゃ／ではない」は、これは、「(そう見えるかもしれないが、) そんな気はなかった」という意味を持ちます。

最後に「意志」「信念・その気」を表す「～つもりだ」の過去の否定についてですが、紙面の関係で、例文のみ紹介します。いずれも基本的には、話し手がその時のことを思い出し、過去のこととして述べているということになります。逆接を表す「が・けれども・のに」などに続くことが多いです。

- (14) お酒は飲まないつもりだったが、仲間がおいしそうに飲んでいるのを見て、つい手を出してしまった。
 (15) 彼を怒らせるつもりはなかったのに、ついきついことを言ってしまった。
 (16) 本当はやるつもりじゃなかったけど、皆に言われてやる気になった。
 (17) そんなに厳しく言ったつもりはなかったのです。彼女に立ち直ってほしかっただけなのです。

このコーナーの担当者: 市川保子(日本語国際センター客員講師)

このコーナーについてご感想やご質問があれば送ってください。